
■■■■ ■ ■■■■ 利用教育委員会通信
■ ■ ■■■ 日本図書館協会図書館利用教育委員会
■■■■ ■■■■ ■■■■ JLA The Committee of User Education

- ・「〈CUE〉利用教育委員会通信」は日本図書館協会図書館利用教育委員会
がニュースをお伝えするメールマガジンです。
- ・〈CUE〉は **Committee of User Education** の頭文字です。英語の「cue」
はスタートの合図の意。利用教育の普及への願いを込めた誌名です。
- ・本誌は等幅フォントでご覧ください。
- ・利用教育関連の情報をお寄せください。本誌へのご意見やご要望もお待ち
しています。 cue@jla.or.jp

□ 目次

- (1) 第22回図書館利用教育実践セミナー (in 東京) のご案内
- (2) 第103回全国図書館大会 東京大会 (第19分科会 利用教育) の開催報告
- (3) 編集後記
- (4) 図書館利用教育委員会委員

(1) 第22回図書館利用教育実践セミナー (in 東京) のご案内

館種を越えた情報リテラシー教育の枠組みづくりに向けて
—多様な対象者に対する多様なアプローチ—

情報リテラシーは生涯にわたって必要な「生きる力」です。あらゆる館種にとって情報リテラシーの支援は重要な課題となっています。情報リテラシー教育は多様な利用者を対象としています。今回のセミナーでは、多様な利用者に対する多様なアプローチについて考えていきます。また、館種を越えた情報リテラシー教育の枠組みづくりに向けて、図書館界としての具体的な取り組みについて考えていきます。

○日時：2018年3月11日(日)13:30～16:30

○会場：跡見学園女子大学 文京キャンパス 2号館5階 2501教室

・交通アクセス：東京メトロ丸ノ内線 茗荷谷駅より徒歩2分

東京メトロ有楽町線 護国寺駅より徒歩8分

<http://www.atomi.ac.jp/univ/about/campus/access.html>

- ・キャンパスマップ

<http://www.atomi.ac.jp/univ/about/campus/bunkyo.html>

○プログラム（予定）：

- ・「ハンディキャップのある利用者に対する情報リテラシー教育」
福田博同（跡見学園女子大学）
- ・「手話つき OPAC ガイダンス動画制作秘話」
十文字学園女子大学 石川研究室 3年生
- ・「どこへ何を運ぶ？ 移動図書館と情報リテラシー（問題提起）」
石川敬史（十文字学園女子大学）
- ・「主体的な学習を促す問いとモチベーションの関係（仮題）」
天野由貴（椙山女学園大学）
- ・「情報リテラシー教育の教材論に向けて（仮題）」
野末俊比古（青山学院大学）
- ・「情報リテラシー教育の枠組みづくりに向けて（仮題）」
日本図書館協会図書館利用教育委員会

※ほか調整中，登壇順未定（登壇者・登壇順は決まり次第，随時，以下の詳細 HP でご案内いたします）

○対象者：どなたでもご参加いただけます

○主催：日本図書館協会

○企画・運営：図書館利用教育委員会

○参加費（資料費）：500円（当日受付にてお支払いください）

○申込方法：メールに，氏名（ヨミ）・所属・連絡先（メールアドレス）を明記のうえ，以下のメールアドレスに送信してください。

○申込・問合せ：図書館利用教育委員会 E-mail : cue@jla.or.jp

○詳細 HP : <http://www.jla.or.jp/cue/>

(2) 第 103 回全国図書館大会 東京大会 (第 19 分科会 利用教育) の開催報告

館種を越えた情報リテラシー教育の枠組みづくりに向けて
—実践を支える理論を求めて—

春田和男 (東京家政大学)

第 19 分科会 (利用教育) では、2017 年 10 月 13 日、国立オリンピック記念
青少年総合センターのセンター棟 513 号室にて、以下の 3 件の講演を行った。

講演 1 は、井田浩之氏 (UCL Institute of Education) による「教育方法
論からみた情報リテラシー教育の現状と課題—教員、カリキュラム、そし
て大学図書館の包括的融合モデルを目指して—」である。イギリスの事例
を織り交ぜて、教育方法、カリキュラム論、リテラシー教育の観点から、
大学での情報リテラシー教育の現状と課題について講演を行った。1)蔵書
構成を通じた研究支援と思考開始の支援が、情報リテラシーを強固なも
のにすること、2)情報リテラシー教育の目的、タイミング、範囲を明確にす
る必要があることなどを指摘した。

講演 2 は、桑原博文氏 (株式会社ネットアドバンス) による「情報リテラ
シー講習会から見える課題—大学と公立図書館における経験から—」である。
ネットアドバンスでは、日本の百科事典や辞書類が持つ膨大な知識情報を
収録した『ジャパンナレッジ』というオンラインデータベースを提供して
いる。このデータベースの導入状況、大学や公共図書館向けのガイダンス
の実施状況、ガイダンスでの苦労・悩みなどについて説明した。

講演 3 は、飯尾健氏 (京都大学大学院教育学研究科) による「大学生の情
報リテラシーの実態—習得傾向と図書館の寄与—」である。学生に対して
質問紙調査を実施し、大学における情報リテラシー教育の評価を行った。
その結果、1)学生は情報リテラシーにおける情報の評価・活用等について
不得意な傾向があること、2)情報リテラシーの育成には実際の情報検索・

活用が重要であること、3)大学図書館の利用はごく一部の側面に限られていることが明らかになった。

講演後には、ミニワークショップを行った。当分科会の参加者数は47名である。アンケートでは「興味深い内容だった」といった声が寄せられた。

(3) 編集後記

第93号をお届けします。今号では、来月に開催する第22回図書館利用教育実践セミナーのご案内を掲載しました。皆様のご参加をお待ちしております。
(春田)

(4) 図書館利用教育委員会委員

(委員長)

野末俊比古：青山学院大学教育人間科学部

(委員)

天野 由貴：椋山女学園大学

石川 敬史：十文字学園女子大学

春田 和男：東京家政大学人文学部

福田 博同：跡見学園女子大学文学部

(事務局)

久保木いづみ：日本図書館協会事務局

〈CUE〉利用教育委員会通信 第93号(27巻4号) 2018.2.28 発行

・バックナンバー：<http://www.jla.or.jp/cue/>

・配信登録・変更・解除・お問い合わせ：cue@jla.or.jp

※本誌は Gmail を使って発行していますが、日本図書館協会および当委員会、ならびに本誌の内容と Google とは関係がありません。
